

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
1	1. シミュレーションについて、狛江市のシミュレーションの比較も示されており、信頼性が高いものとお考えのことはわかりました。しかしながら、10月30日の参加者も指摘しておりましたが、逆流が起きていたか、浸水被害範囲など当時の目視での結果と不整合が見られます。今後、当時の状況に近づけるべく、条件を追加してシミュレーションをする予定はありますか？	令和元年台風19号当日の正確な再現を行えるよう、測量等を行い可能な限り条件を整えたうえで浸水シミュレーションを実施いたしましたが、当日の目視状況との相違点を全て解消することは困難である状況です。
	2. 今回の対応策は、シミュレーション結果に基づくもので、昨年の台風被害に基づくものではないという理解でよろしいでしょうか？	中間報告説明会の資料P31でお示した対策は、台風19号被害に基づく短期的な対策として実施したものととなります。
	3. 逆流が生じた段階で閉門することで、浸水量を最小に抑えるという方針はわかりましたが、順流・逆流の判断はどのようにするのでしょうか？水位計等の判断基準も示してください。	排水樋管毎の操作要領に基づき、流向計及び樋管の内外に設置した水位計の水位差による水の流れの向きと、現場での目視による状況に基づき樋管操作を行ってまいります。
	4. 可能であれば、今回のシミュレーション上、逆流が生じた21:30時点で閉門した場合に、どの程度被害が軽減されるかをシミュレーションした結果を示していただけませんか？	中間報告説明会の資料P27,P28の調布市検証結果における当日再現と②逆流発生時に全閉の図が、シミュレーションの結果となります。また、P29にお示したとおり、当日再現値の248,542㎡から②逆流発生時に全閉値の199,117㎡を引いた49,425㎡が軽減量となります。
	5. 説明資料35ページの説明によると、計画高水位5.2mの時点でポンプ停止になります。その時点で雨が降り続けている場合などは、もう浸水を防ぐことは諦めるということでしょうか？	計画高水位に達すると多摩川に水を吐き出すことができないためポンプ運転を停止いたします。水位が計画高水位を下回り樋管への移動経路が確保され、樋管の操作を安全に行える状態と判断した場合にはポンプ運転を再開いたします。
1	6. 昨年の台風時に職員の方が退避を決めた時点について石原観測所6mという情報しかありません。計画高水位5.2mというのが職員の安全を確保するのに十分な数値なのでしょうか？	狛江市では、昨年の台風時は石原観測所における水位をもとに避難行動を判断していたため、石原観測所における計画高水位5.94mを上回る多摩川水位となり退避したと聞いております。堤防には余裕がみこまれており、計画高水位を超えたことで直ちに溢水には至りませんが、退避水位として妥当な水位と認識しております。（石原石原観測所計画高水位5.94m＝六郷排水樋管水位5.2m）
	7. 将来的な対策として、ポンプを遠隔で操作できるようにすることが望ましいと考えます。その予定はありますか？また、その場合の有効性について知りたいので、計画高水位5.2m時点でポンプを停止した場合と停止しない場合の両方のシミュレーション結果を示していただけませんか？	ご質問いただきました六郷排水樋管の管理については、施設管理者である狛江市の責任の下、行ってきました。今後も同様の管理体制となりますが、シミュレーション結果を踏まえ、両市でしっかり協議の上、根川雨水幹線への負荷を軽減させるための対策を講じてまいります。 六郷排水樋管における排水ポンプについての遠隔操作化は現在狛江市で準備を進めています。また、計画高水位5.2mに達すると河川に排水することはできないため、排水ポンプを停止せざるを得ません。多摩川水位が計画高水位以下となった時点で排水が再開できることから、遠隔操作化は有効な手段と考えています。
	8. 防災に関するアンケート結果をお示いただき、興味深く読ませていただきました。台風19号の際に避難しなかった方のうち、65歳以上は約51%との情報をお示しいただいていますが、全体での65歳以上の割合が示されていないため、この数値だけでは、高齢者に避難しない傾向が高かったことが示されません。（ホームページの報告書を見ますと60歳以上がおおよそ40%なので、避難しなかった方に高齢者の割合が高いことはわかりますが、説明会の席上でホームページを閲覧するのは難しく、資料作成の際には、参加者がその場で必要な情報を理解できるようにしていただくことを望みます。	情報を補足させていただきます。 全体の母数は2670人で、それぞれの内訳と避難しなかったと回答した人数は、次のとおりです。 ・0歳から2歳の子どもがいると回答した人は220人おり、36.8%に当たる81人が避難しなかった。 ・3歳から5歳の子どもがいると回答した人は276人おり、28.3%に当たる78人が避難しなかった。 ・小中学生の子どもがいると回答した人は503人おり、31.6%に当たる159人が避難しなかった。 ・65～74歳の高齢者がいると回答した人は361人おり、51%に当たる184人が避難しなかった。 ・75歳以上の高齢者がいると回答した人は373人おり、51.5%に当たる192人が避難しなかった。 ・身体に障害があり自力避難できないと回答した人は166人おり、64.5%に当たる107人が避難しなかった。 以上のように、65歳以上の高齢者に避難しない傾向が高いという結果になっています。 なお、詳しいアンケート結果は、市ホームページ「令和元年台風19号避難行動等調査結果報告書」の17ページ、設問12をご覧ください。

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
2	多摩川の現況について質問させて頂きましたが、重ねて確認いたします。 国土交通省の治水プロジェクトの件で、R1多摩川上河原堰上流掘削工事が効果的であるのはわかりませんが、①その他に調布市内でどのような工事が予定されていますか？	河道掘削、樹木伐採工事のほか、令和3年3月下旬までの工期で、上石原三丁目地先において台風19号により被災した護岸や根固め工等の復旧工事を行っているほか、多摩川三丁目地先において水位観測所の標柱の復旧工事を行っています。
	60cmの水位低下は、令和6年度までとありますが、 ②詳細な工事日程等がありましたら、教えてください。	現時点では国において詳細な日程に関する情報は公表されておりません。
	③多摩川の健康状態については、逐次報告頂きたく、今後もお願いしたい。安心を得るためにも！！	多摩川を管理している国土交通省京浜河川事務所との連携を図り、市報・市ホームページ等で逐次情報提供してまいります。
3	本日、住民説明会に参加致しました。時間が限られて、質問出来ませんでした。やはり、内水氾濫に大規模雨水貯留槽が必要だと思います。 予算や施設の敷地が必要と思いますが染地エリアの浸水防災上に非常に有用と思います。 ネットの写真を添付します。（学校校庭や公園の地下貯留槽）	ハード面の対策としては、一時貯留施設、逆流を防止するフラップゲート、ポンプ施設の整備等が考えられますが、ソフト対策と合わせ、実効性のある内水氾濫の対策について検討してまいります。
4	【説明会運営について】 ・説明者は、「〇ページをご覧ください」と言ってから説明してほしい。画面のページ表示も小さく早口なので、ページを追えず、困っている人が少なくなかった。	説明にあたっては、説明ページをお伝えしたうえ、話す速度等にも気を配りながら、丁寧に説明するよう改めてまいります。
	・質疑応答で、一部の質問者の話がとても長く時間に限りがあったり、都市計画部署が同席するのが望ましいことも指摘された。資料を事前に公開しているのであれば、質問を事前にも書面で受けておいて、当日、的確に回答・説明すれば、さらに多くの質疑ができるはず。	中間報告でいただいた質問に可能な限りお答えできるよう、様々なシミュレーション等を行っていたことから、資料が直前の公開となり申し訳ありませんでした。このため、質問についても、前回同様説明会当日に承る予定です。予めご了承ください。
	・参加できなかった住民や市民もいるので、郵送質問も含めて、すべての質疑の結果について公表すべきである。市民が情報共有できるよう、開かれた市政を目指すこと。	説明会資料と質疑応答の結果は、ご質問をいただいた方々への直接の回答と合わせ、市ホームページで公開します。
	【検証モデルについて】 ・用いたモデルは、国土交通省で公認された手法なのか。また、狛江市と同じ手法と条件で求めているのか。（そうでなければ、狛江市と比較検証しても意味がない）	今回解析に用いたモデルは国土交通省の外郭団体である公益財団法人日本下水道新技術機構により公認されている3モデルの一つであるInfoworkslCMとなります。また、シミュレーションを行うための諸条件については狛江市と情報を共有したうえ、各々で台風当日の解析業務を行いました。
	・浸水発生時刻はアウトプットであって、正確に再現すべき指標は溢水量の推移なのではないか。対象エリアで時系列に実測されている指標はどれだけあり、それはモデルの検証に足るものなのか。	現地における聞き取り及び測量結果についてはあくまでも被害最大の浸水深であり、時系列での実測は行えておりませんが、台風当日のシミュレーション結果の浸水深をほぼ再現しております。
・時系列で、様々なケースの組み合わせの状況に対応して六郷排水樋管ゲートの開閉などが行われるべきであり、同時に上流のゲート開閉が下流域にも影響を及ぼすと考えられる。流域市区町村との緊密な連絡調整が必要である。	職員避難時に全閉・逆流発生時に全閉・計画高水位超過時に全閉の3ケースでのシミュレーションを実施いたしました。また、関係機関との緊密な情報共有を引き続き図ってまいります。	

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
4 続	<p>・今年はこのような事態は幸いなかったが、それぞれの対策の費用対効果を早急に検討し、即効性のあるものは令和3年度予算に計上して実現を急いでほしい。</p> <p>・異常気象によりこれまで経験のない降雨が見込まれるなか、何といたっても浸水リスクの大きな前提条件は、多摩川の水位である。対症療法では歯が立たないことは明白である。国土交通省の対策を紹介するだけでなく、関係者の一として具体的にかかわっていかなくてはならない。このため、国土交通省と流域市区町村で協議会を結成し、多摩川流域圏全体を対象とする河川管理・河川活用を行うよう進めてほしい。</p>	<p>令和3年度の市の予算においては、狛江市と合同で実現可能な対策を検討し下水道浸水被害軽減総合計画の策定、調布排水樋管の遠隔操作化、等を計上しております。なお、狛江市においても、下水道浸水被害軽減総合計画の策定、六郷排水樋管の遠隔操作化等の予算を計上していることを確認しています。</p> <p>今後のハード面の対策としては、一時貯留施設、逆流を防止するフラップゲート、ポンプ施設の整備等が考えられますが、ソフト対策と合わせ、実効性のある内水氾濫の対策について検討いたします。</p> <p>多摩川緊急治水対策プロジェクトは、国、都、県、市区が連携し進めているプロジェクトで調布市も一員となっております。また、多摩川を所管する国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所に対し、市独自の河川整備等に関する要望も行ってあります。</p> <p>今後の気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域全体で計画的に水害を軽減させる取組が必要であるため、今後も、国土交通省京浜河川事務所と連携を図り、市民の皆様への情報発信に努めてまいります。</p>
5	<p>1. 「六郷樋管ゲート」の管理権を狛江市から調布市へ移管する。</p> <p>・本来、羽毛下、根川雨水幹線の水量の大部分は調布市管内からの雨水によるもの。狛江市にゲートの管理を委ねては（余り信用できない？）他人に我が家の鍵を渡しているのと同じこと。東京都に仲介を依頼して狛江市から移管を受けて下さい。</p> <p>2. 浸水想定地域住民への減税、免税措置を検討。</p> <p>・19号台風での浸水地域の水量の相当部分は羽毛上の高台からのもの。いわば調布市の山の手の水が下町で溢れていることになる。将来的にもこのハンデは続く。市民税、住民税等の減免措置をご検討願いたい。</p>	<p>六郷排水樋管の管理については、施設管理者である狛江市の責任の下、行ってきました。今後も同様の管理体制となりますが、昨年台風19号の経験を踏まえ、同様の水害が想定される際は、両市が速やかな情報伝達を行うとともに、両市の連携を緊密に行い、根川雨水幹線への負荷を軽減させるための対策を講じてまいります。</p> <p>土地の固定資産税等の軽減については、基本的に土地の利用に制限があることに鑑みて適用されているものです。浸水想定区域は、風水害等が発生した際に被害を最小限にするため、平時から水害対策をしておくべき区域として危険性が高い場所を示したものであり、土地利用の制限等はないため、税の軽減対象とはなっておりません。</p> <p>なお、土地の固定資産税等が軽減されているものの例としては、「がけ地補正」「土砂災害特別警戒区域補正」等があります。</p>
6	<p>先日の説明会ありがとうございました。</p> <p>昨年の台風で床上浸水し、半壊指定となりました。年末に畳の部屋を中心に1階の半分ほどを修繕し、相当分の補助を頂きました。キッチン、リビングは浸水はしたものの、当時は大きな損傷も見当たらず、生活に必要なスペースとして確保するため、修繕はしませんでした。</p> <p>ところが今年の夏頃から徐々に床板（合板）の反り、はがれなどが発生しはじめました。最近床のたわみも起きており、修繕が必要な状況になっています。</p> <p>このような遅れて発生してきた損害については、今後追加の費用保証は受けられないでしょうか。ご検討をお願い致します。</p>	<p>半壊世帯に対する被災者生活再建支援事業補助金については、1世帯につき、1回限りの補助金であり、2回以上の補助金支出をすることは致しかねます。</p>
7	<p>いつも大変お世話になっております。</p> <p>台風19号の折、床下浸水してしまったので、玄関前、勝手口用に止水版の用意と床下換気口からの浸水を防止するものを設置したいと思います。</p> <p>自分で業者に依頼して、領収書を下水道課に提出すればよいのですか？</p>	<p>止水板設置等の窓口は、総務部総合防災安全課となります。</p> <p>助成金の交付を受けるには設置工事を行う前に申請が必要となりますので、事前に窓口にご相談いただけますようお願いいたします。</p>

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
	<p>【中間報告】資料P26~29 六郷排水樋管ゲートの操作検証の結果、調布市、狛江市ともに逆流発生時にゲートを占めたケースの浸水が最小となった理由はどのように考えているのでしょうか。また、この結果を今後の対策にどのように活かすのでしょうか</p>	<p>逆流発生時に樋管ゲートを閉塞することにより多摩川からの逆流水が無くなり、内水被害のみとなることで浸水被害が最小となりました。六郷排水樋管の管理については、施設管理者である狛江市の責任の下となりますが、今回新たに設置した水位計・流向計及び樋管操作要領により、適切に逆流の判断を行い、両市が速やかな情報伝達を行うとともに、両市でしっかり協議の上、浸水被害の軽減に努めてまいります。</p>
	<p>資料P31 問題点①の内容に「逆流が発生するまでは閉鎖しないこととしていた。」とあるが、逆流が、発生してもなお閉鎖されなかったのはなぜでしょうか。</p>	<p>令和元年台風19号当日の浸水シミュレーションの結果、21時20分に逆流が発生したことを確認しました。当時、風雨が続く暗い中、染地の各地区で道路冠水が起り、限られた人員での確認・排水作業などの対応を優先させたため、排水樋管で常時監視の体制が確保できていませんでした。また調布幹線の底部から逆流が発生していた場合、水面の監視では判断できない可能性もあることから、今回設置した流向計・水位計による確実な逆流の確認ができるようになりました。 ※その後の詳細な解析の結果、調布幹線における逆流は長時間継続して発生したのではなく、流れが停滞状態となることにより順流と逆流が交互に繰り返される状態であること、水位上昇は調布幹線内で収まり、調布幹線からの溢水は生じていない状況であることが判明しました。</p>
8	<p>資料P31 可搬式排水ポンプ配備が3台というのは、浸水初期の対策としても十分な配備とは考えにくいです。説明を聞く限り「とりあえず」の対策である印象を受けました。そうであるならば、今後、データに基づく根拠（浸水初期に想定される水量に対して必要な排水機能）によって可搬式排水ポンプの必要台数を配備してほしいです。</p>	<p>職員が機動的に扱えるサイズ（200kg/台）としては最大級の能力（3.3m³/分/台）を有しているポンプで、複数の場所で同時に対応可能となるよう3台の装備を考えました。中間報告説明会の資料P29のケース毎の浸水量からも、現在所有している可搬式排水ポンプの能力では内水氾濫を防ぐことができないものは認識しております。ハード面の対策としては、排水ポンプの他に一時貯留施設やポンプ施設の整備等が考えられますが、ソフト対策と合わせ、実効性のある内水氾濫の対策について検討してまいります。</p>
	<p>資料P31 樋管遠隔操作の検討は、「実現」が必須だと思います。どのような状況でも樋管の操作ができ、操作担当者の安全を確保することが必要です。</p>	<p>浸水シミュレーションの結果、降雨条件によって大小はありますが、逆流発生時に全閉することで被害が最小になることが判明しました。樋管の遠隔操作化が実現すると、流向計や水位計によって逆流を確認した際、職員が現地で待機できなかった場合にも即座に全閉できるようになります。また、他自治体では、道路冠水等が原因で樋管までたどり着けず全閉できなかった事例もありました。こうした点からも樋管の遠隔操作化は必要な対策と考えております。</p>
	<p>資料P34~35 操作要領には、いつ（具体的な条件）、誰が（複数名体制）、何を（結果の報告・情報共有体制も確立すべきでしょう）するのか、を記す必要があると思います。</p>	<p>今回お示いたしました操作要領は暫定のものとなり、解析結果に基づき最良の形に修正しております。</p>
	<p>資料P36 狛江市との合同水防訓練は、ぜひ毎年、住民に開かれた形で実施してほしいです。</p>	<p>令和2年6月に行いました調布市・狛江市合同水防訓練は、コロナ禍の状況も踏まえ非公開で実施いたしました。環境を整えば住民の皆様にも参加していただける形にしたいと考えております。</p>
	<p>資料P39 河道掘削工事は一度行えば終わるものではないと思いますが、長期計画（何年間隔で行うというような計画）はどのようになっているのでしょうか。</p>	<p>多摩川を管理している国土交通省京浜河川事務所との連携を図り、市報・市ホームページ等で逐次情報提供してまいります。</p>

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
8 統	<p>P39 浸水被害をより少なく抑えるためには治水対策が重要な役割を果たすと考えます。今後どのような取り組みが行われるか、国土交通省に任せるだけでなく、調布市からも積極的に情報を発信してください。</p>	<p>多摩川緊急治水対策プロジェクトは、国、都、県、市区が連携し進めているプロジェクトで調布市も一員となっております。また、多摩川を所管する国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所に対し、市独自の河川整備等に関する要望も行ってあります。</p> <p>今後の気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域全体で計画的に水害を軽減させる取組が必要であるため、今後も、国土交通省京浜河川事務所と連携を図り、市民の皆様への情報発信に努めてまいります。</p>
	<p>【風水害に備えた取組】P7 土のうステーションは、対象地域に対する土のうの供給量があまりにも少なく、また緊急時に土のうを自宅まで運ぶという重労働をすることになるため、現実的な対策とは言えないでしょう。これは、やめたほうが良いと思います。</p>	<p>土のうステーションは、市民の皆様の必要に応じていつでも土のうを持ち出していただくために、現在、市内7か所に設置しています。土のうステーションの中には、1袋当たり10kg程度の土のうが約80袋入っていますが、一度に多くの方が利用するには1つの土のうステーションではまかないきれません。</p> <p>このことから、台風や大雨が予想される場合は、土のうステーションの土のうが不足する可能性があるため、日頃からの準備をお願いします。</p> <p>なお、土のうは30cm程度の増水までの浸水防止対策とお考えいただければと思います。</p> <p>ご参考に、市販の商品では、扱いやすいものとして水で膨らむものもあるようです。</p>
	<p>資料P9 （株）サイボウズとの「災害時におけるIT支援に係る協定」を結んだことは、今後の対策を進めるにあたって非常に良い選択をしたと思います。避難所混雑状況の可視化、避難所受付システムの試験的運用をこのような協定があった上で実施したことをもっとアピールするべきだと思います。</p>	<p>市としても避難所受付・情報共有システムに関する市民への周知と理解促進が必要と認識しており、市報や出前講座のほか、地域の防災訓練等での運用を通じて、システムの周知と認知度の向上に努めてまいります。</p>
	<p>資料P9 避難所開設訓練を行って見えた課題とその対策を教えてください。</p>	<p>感染症考慮時の体育館の収容者人数が、これまで想定していた人数と比較し、大幅に減少が見込まれることから、避難所となる各小中学校を現地調査し学校側と協議のうえ、体育館以外の教室についても避難場所とする避難所利用計画として取りまとめました。</p>
	<p>資料P11~14 要配慮者専用駐車場の最寄りの避難所として記載されている調布中学校と北ノ台小学校は、要配慮者専用避難所になっていません。これら二つの避難所は要配慮者用ではないが、受け入れる態勢があるということでしょうか。</p>	<p>調布中学校や北ノ台小学校を含む学校避難所は、全ての避難所で要配慮者を受け入れる体制を整えています。</p> <p>ご質問の2校は、高齢者や身体の不自由な方などの要配慮者から要望が多い車両での避難について、要配慮者専用の駐車場所を確保した上で最寄りの避難所として案内しています。</p> <p>なお、西部地域福祉センターや主に乳幼児や妊産婦を受け入れる子ども家庭支援センターすこやかなどは、風水害時の避難所として浸水想定や避難者のニーズを考慮して用途を見直し、施設の特性に応じた要配慮者専用の福祉避難所として早期に開設することとしております。</p>
	<p>資料P11~14 調布中学校と北ノ台小学校は、要配慮者のほか一般の車両避難の駐車場からの最寄りの避難所となっているが、それだけの受け入れ体制が取れるのでしょうか。</p>	<p>多摩川の浸水想定区域から比較的遠方の避難所であるため、市民の方の分散避難につながるものと想定しております。</p>
	<p>その他 避難所開設が長期にわたる場合に備えた、他団体（自衛隊、NPO、ボランティア等）への支援要請体制および現状の課題はどのようになっているのでしょうか。</p>	<p>災害規模によっては、短時間に膨大な災害対応業務が発生するため、市のみで対応できない状況となります。そのため、外部からの応援を円滑に受け入れ、的確な災害対応ができるよう、引き続き防災訓練等を通じて連携を強化し、平時より受け入れ態勢を整備してまいります。</p>

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
8 続	<p>以下は、説明会の進行に対する意見と要望です。 説明の速度が速く、また、資料のどこを説明しているのかという補足がなく進んだため（途中からページ数は明示されるようになりましたが）、ついていくのがやっとなりで、理解したり質問を考える余裕はほとんどありませんでした。参加者には高齢の方も多いため、参加者が納得感を持つためには、説明の速度や丁寧さも配慮いただきたいです。</p>	<p>説明にあたっては、説明ページをお伝えしたうえで、話す速度等にも気を配りながら、丁寧に説明するよう改めてまいります。</p>
	<p>説明会参加者には事前に質問を受け付ける仕組みを作り、当日回答、あるいは当日の配布資料に回答を載せておくようにしてはどうでしょうか。当日の質疑応答は前向きな議論の時間にしてほしいです。</p>	<p>中間報告でいただいた質問に可能な限りお答えできるよう、様々なシミュレーション等を行っていたことから、資料が直前の公開となり申し訳ありませんでした。このため、質問についても、前回同様説明会当日に承る予定です。予めご了承ください。</p>
	<p>サイボウズ（株）と協定を結んでいるのですから、このような説明会もサイボウズと協力して行ってはどうでしょうか。サイボウズの持つノウハウやICTを活用することで、さらに質が高まり、より多くの住民に情報を届けることができ、お互いに満足度が上がると思います。 同時にオンライン配信もしていただけると、より多くの市民に説明を届けることができますし、透明性、公平性が高まると思います。市だけで難しければ、災害対策で提携をしているサイボウズの力を借りて良いと思います。どうか柔軟にご検討ください。</p>	<p>災害時のIT支援協定を締結しているサイボウズ株式会社の持つノウハウを活用した取組は重要であると認識しています。今後も引き続き連携を強化し、より多くの情報を提供できるよう努めてまいります。 オンライン配信については、今回は準備が間に合わず実現に至りませんでした。今後とも検討してまいります。</p>
9	<p>国の考え方の中に、各種災害時に危険が及ぶ住宅地区の住み替えがあると聞きます。ある意味、多摩川住宅（隣地を含めて）は、水害に関してその考え方の範疇にあると思います。しかし、平時における多摩川からの、豊かな自然環境が近隣住民の心に与える、安堵感・解放感また、散歩・ジョギング等からの、人と人とのふれあい・健康増進等を考えると、より安心・安全な「多摩川住宅」の住宅地区として整備して行くことが何より大切として本文としました。</p>	<p>ご提案ありがとうございます。 安全・安心なまちづくりを推進するため、ご提案いただいたご意見も参考にさせていただき、今後、実現可能な浸水対策について検討してまいります。</p>
	<p>■短期的取り組み（1～3年） 目的（1）人的被害者は皆無とする。（幸い19号でも、ありませんでした。） （2）水害時、物的被害を”19号”時以下とする。 対策（1）調布市・狛江市両市の綿密な連携関係の構築 （2）水害時「各種作業マニュアルの整理」及び「作業訓練」 （新規設置各種機材等の100%稼働確保） （3）「水害」及び「震災」に分けた住民向け情報発信（避難所等を含み）</p>	
	<p>■中期的取り組み（4～10年） 目的（1）人的被害者は皆無とする。（不変の項目） （2）水害時、新たな（これまでは無かった）物的被害は出さない。 対策（1）調布市・狛江市両市の綿密な連携関係の構築（不変の項目） （2）最新のより効果的な「排水ポンプの機種選定」及び「設置場所の検討」 （3）現状の「下水本枝配管の再確認」及び将来に向けた「下水本枝配管の検討」</p>	
<p>■長期的取り組み（11～100年） 目的（1）人的被害者は皆無とする。（不変の項目） （2）水害時、物的被害を皆無とする。 対策（1）調布市・狛江市両市の綿密な連携関係の構築（不変の項目） （2）蓄積した気象情報の活用 （3）長期期間の中で発展するであろう、建設技術等の検討及び活用 （4）高規格堤防（スーパー堤防）の検討及び行政主導による実施</p>		

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
10	<p>富士見台小に10/12 21:00に避難しました。情報が非常に少なく、屋から避難するか、ずっと悩んでいました。多摩川の定点カメラ、友人とのLINE会話で、避難を決定しました。希望としては、「調布市のHPの充実」をお願いします。風水激しい中でのアナウンス（調布の放送）だけでは、窓も締め切っている中、なかなか聞きとれませんでした。タイムリーな情報が随時欲しいです。</p>	<p>「調布市のHPの充実」については、災害時用トップページの改修を実施いたしました。具体的には、災害時用トップページの容量の軽量化を図るとともに、必要な情報を得られやすいようコンテンツの配置を見直し、災害時の機能を強化しました。ヤフー株式会社との災害協定を活用してヤフーのサイトに市ホームページキャッシュサイトのURLを表示することでホストサーバーへのアクセスを分散します。</p> <p>防災行政無線での放送については、雨風が強い時で防災行政無線の内容が聞き取りにくい状況であると考えられます。放送内容が聞き取りにくい場合は、内容について、防災フリーダイヤル（0800-8000-903）で最新の放送内容を確認いただけますのでご活用ください。また、調布エフエム、避難情報などを発信する調布市防災・安全情報メールへの登録やテレビのDボタン（データ放送）の活用も情報収集手段としてご検討ください。</p> <p>また、地域住民の避難の一助となるよう、調布排水樋管・六郷排水樋管・調布幹線・根川雨水幹線等の水位情報や現地の画像等をインターネットで公開しており、「調布市防災河川情報ポータルサイト」を検索することでスマートフォンからも確認できますのでご活用ください。</p>
11	<p>当日配布された資料の風水害に備えた取組みのなかで、要配慮者専用の避難所を開設（風水害時）とあり、学校避難所と同時に開設しますとなっておりますが、</p> <p>①これは風水害時のみでしょうか。</p> <p>②避難所への避難者の想定人数はどのくらいでしょうか。</p> <p>③また避難所への職員配置はどのくらい考えているのでしょうか。</p> <p>また早めの時間帯に限り要配慮者の専用駐車場を避難所の近くに開設するとしていますが、①避難所における要配慮者の避難スペースは一般の方とは別のスペースとなりますか。</p> <p>②その要配慮者の避難スペースには段ボールベッドなどは設置されるのでしょうか。</p> <p>③要配慮者対応の職員配置はどのくらい考えていますでしょうか。</p> <p>最後に資料とは関係ありませんが、</p> <p>①各地で導入されている段ボールベッドやトレーラーハウスなどは検討されていますでしょうか。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症のもとで避難所の収容人数がかなり制限されますが、その対応はどのように検討されていますでしょうか。</p>	<p>風水害時のみ、小中学校等の一次避難所と同時に開設予定の福祉避難所として、総合福祉センター、子ども家庭支援センターすこやか、西部地域福祉センター及び西調布体育館を予定しております。このうち総合福祉センターは主に体の不自由な方の避難所として、すこやかには主に乳幼児や妊産婦の避難所としての開設を予定しています。</p> <p>また、小中学校の避難所の中でも、要配慮者の方のための専用スペースを用意いたしますので、一般の避難者とは異なる部屋で過ごすことが可能です。</p> <p>調布市地域防災計画上の避難所想定収容人数の合計は約11,000人であり、感染症考慮時においては約8,000人を想定しています。（風水害時）</p> <p>原則、各避難所13人の担当職員を配置しており、小中学校はこれに加えて、用務員、給食調理員などの学校職員も参集することになっております。</p> <p>また、混雑が予想される避難所には、更に追加して職員を配置しています。</p> <p>そのほか、人員が不足している避難所には応援要員の派遣も想定しています。</p> <p>避難所における要配慮者の避難スペースは、ゾーニングにより要配慮者専用スペースを用意し、一般の避難者とは異なる部屋で過ごすことが可能です。</p> <p>段ボールベッドは多くの備蓄スペースを必要とすることから、避難が長期に及んだ場合に協定締結事業者から供給いただき設置することを予定しています。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症対策を含め、体調不良の避難者への対応も必要となるものと考えておりますので、他の備蓄品保管スペースへの影響を踏まえながら、備蓄可能な資材の種類や数量を検証し、配備に努めてまいります。</p> <p>各避難所2～3人程度を想定しています。基本的には、ご家族や介助者の方に支援をお願いいたします。職員配置についても前述の限りではなく状況に応じて適切な対応に努めます。</p> <p>市は、避難所における要配慮者等の生活環境の向上を図るため、災害時に段ボールベッドや間仕切りを供給する民間事業者との協定を締結しております。これらの資材は、多くの備蓄スペースを必要とすることから、避難が長期に及んだ場合に協定締結事業者から供給いただき設置することを予定しています。</p> <p>トレーラーハウスについては、現時点では備蓄等を想定しておりません。</p> <p>避難場所として、体育館のほかに空き教室等も活用し、収容人数の確保に向けて整備を進めてまいります。また、多くの避難所を開設するとともに、新規の避難所施設の確保に努めてまいります。さらに、安全な場所にある親戚や友人の家への避難など、複数の避難場所や避難方法についても日頃から検討していただくよう周知に努めてまいります。</p>

台風19号浸水被害に係る住民説明会（令和2年10月中間報告）質問票でいただいた質問事項及び回答（市の考え方）一覧

（令和3年3月12日時点の状況に基づき回答しております）

質問者 NO.	質問内容	回答（市の考え方）
11 続	③六郷排水樋管の流域はかなり広く、六郷樋管一カ所で排水処理しようとすると、かなり大きな排水ポンプを設置しなければなりません、排水処理区域を分割して、新たに排水樋管を設置し、中規模程度の排水ポンプを設置して排水するという事は考えられますか。	当該排水処理区域を分割するためには、対象となる既設の下水道施設について抜本的な見直しをする必要があり、非常に困難となります。ハード面の対策としては、一時貯留施設、逆流を防止するフラップゲート、ポンプ施設の整備等が考えられますが、ソフト対策と合わせ、実効性のある内水氾濫の対策について検討いたします。
12	Q1.「風水害に備えた取組」 P11：各避難所の収容人数をお教えください。	調布市地域防災計画に各避難所の収容人数を定めております。感染症考慮時の収容者人数については、市ホームページ等で公表していません。
	P12：駐車場の運用マニュアルとして、避難所で同乗者を下ろしてから駐車場に移動するという同線は確保されていますよね？	要配慮者の車での避難について、避難所で要配慮者に降りて頂き駐車場に移動できるよう、職員を配置して対応します。なお、一般の方の車での避難は推奨しておりません。
	P14：緊急時に「有料」なんて、ありません！無料で使えるように交渉をお願いします。	協定機関の駐車場の多くは一般利用者の利用と併用となることなどから、有料での利用を前提として管理者と協議しています。
	・避難所の収容人数と、居住者の人口に大きな乖離があります。→矛盾を持った問題とは思いますが、いろいろな知恵を出して検討願います。 官民の知恵を合わせられるように、例えば市民検討会など開催願います。	台風19号避難行動等調査報告書（アンケート）など地域の声を参考に、協定による民間施設の利用も含めて避難所の確保に努めてまいります。
Q2.「住民説明会」資料に関して P29：シミュレーション条件を、雨量を台風19号より少なめ（例えば半分）、多め（1.2倍）などいろいろ変えた場合でも、同じ傾向（②逆流時に全閉が被害が最小になる）が見られるのか？ →この前提のもと、遠隔操作を検討されていると思いますが、もし、①職員避難時に全閉の場合と比較し、被害に大きな差が見られないのであれば遠隔装置という、コストをかける必要は無いと思います。 コストゼロ、安全面を考えても、職員避難時に全閉でよいかと（当面の運用にも盛り込めると思います）。	浸水シミュレーションの結果、降雨条件によって大小はありますが、逆流発生時に全閉することで被害が最小になることが判明しました。樋管の遠隔操作化が実現すると、流向計や水位計によって逆流を確認した際、職員が現地で待機できなかった場合にも即座に全閉できるようになります。また、他自治体では、道路冠水等が原因で樋管までたどり着けず全閉できなかった事例もありました。こうした点からも樋管の遠隔操作化は必要な対策と考えております。	
P36：フラップゲートの設置、今回、はじめてこのような装置があることを知りました。とても良いと思います。狛江市の説明会では出てきませんでした。 →そもそもの水門を、フラップゲートタイプに出来ないのでしょうか？ 素人考えでは、大きな装置と、段差を設ければ、出来そうに思えます。ご検討願います。	水門のフラップゲート化の可能性及び効果について、技術的にはいくつかの課題があることが想定されますが、今後検討してまいります。	
13	床下浸水にあいまして、消毒をしていただいたのですが、また今後も行っていただけるのでしょうか。	災害時の消毒については、厚生労働省の見解も参考に、被害の状況に応じてその都度対応してまいります。
14	先日は住民説明会を開催頂き有難うございました。 多摩川沿いに住む者として防災意識を高めていきたいと思えます。 一点要望があります。自宅前に桜並木があります（市道沿いだと思えます。）毎年きれいに咲き、楽しみです、すでに50年位経過しているのではないかと思います。剪定は毎年手配頂いています、風台風で伐採された桜も近所にはあり、風害で倒れるようなことにならないのか心配しております。倒木の心配がないか、調査して頂きたいです。下水道課が担当ではないかと思われそうですが、よろしく願います。	桜並木（染地緑道の樹木）については、造園業者に委託し管理を行っております。その際に、樹木の保護と美観を維持するための剪定のほか、枯損木の有無について毎年調査しておりますが、必要に応じて対応いたしますので、何かお気づきの点がありましたら、環境部緑と公園課までご連絡ください。